

(法第 28 条第 1 項関係)

平成 31(令和元年)年度事業報告書
(平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人 いさいと

1、事業の成果

平成 31 年度は、まさに激動の年であった。平成 31 年として幕を開けたが、平成天皇の譲位により 5 月には「令和」と改元し、新たな時代が始まった。明るい話題としては、9 月に開幕したラグビー W 杯日本大会において日本代表チームが躍進して初の 8 強入りを果たした。しかしラグビー熱が日本を覆っている間の 9 月から 10 月には、東日本を中心に立て続けに台風被害が発生し甚大な被害が発生した。10 月からは消費税率が 10% に改定され、同月末には、城壁が世界文化遺産に認定されていた沖縄のシンボル「首里城」が焼失した。負の連鎖のとどめは、新型コロナウイルスの蔓延で 3 月からは東京を中心に多くの感染が報告され、日本中が自粛ムードに包まれた。宮崎県でも罹患者が報告され、西都原考古博物館は 3 月 5 日から 26 日までの長期休館となり、ミュージアムショップも併せて閉店。売り上げが大きく落ち込み、法人経営にも多大な影響があった。結果的には暗雲漂う 1 年間であったが、当法人としては新たな事業に取り組み、成果を残すことも出来た。

西都原考古博物館運営支援事業では、ボランティアの高齢化や減少が直近の課題となってきた為、新たなボランティアの発掘やガイドボランティア活動の初心を押さえる研修事業の充実を図った。「ボランティア養成講座」を年間通して実施した。前期は北郷泰道氏を講師に「考古学で考えるのは楽しい」と題して、考古ファンの掘り起こしを行い、後期は西都原考古博物館をガイドする為の講座を行った。全講座を通して多くの参加者を得て、新規ボランティアを獲得する事も出来(コロナで失速)た。また、開館以来初めての出張講座「まちなか考古学」を宮崎市で 2 回(最終回はコロナ蔓延防止で中止)開催することが出来た。上記の研修事業は博物館の全面協力で行ったが、「西都原ボランティア協議会」や「みやざき NPO・協働支援センター」との共催も行い他団体との連携の幅を広め、高い評価を得ることが出来た。

博物館以外では、香川県丸亀市の「文化ボランティア養成研修会」を年間通して行い、高い評価を得ることが出来、次年度も継続して行うことが決定している。また「宮崎発 Live Library 図書館フォーラム 2019」事務局運営を行った。県外の評価としては大和証券福祉財団の助成を受け、講座の実施やボランティアの募集リーフレットを作成できたことは次

年度に向けて大きな成果であった。

代表理事 井上 優

2、事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 市民活動の推進に関する広報・啓発事業

ア) 宮崎発 Live Library 図書館フォーラム 2019 事務局

イ) 大和証券福祉財団ボランティア活動助成事業

ウ) ホームページ・SNS

② 公共施設の等の管理・運営に関する協力・委託事業

ア) 宮崎県立西都原考古博物館運営支援業務委託事業

イ) 丸亀市猪熊弦一郎美術館ボランティア養成講座開催業務

③ その他目的を達成するために必要な事業

ア) 西都原考古博物館ミュージアムショップ運営事業

イ) 銀鏡 滝行プロジェクト

① 市民活動の推進に関する調査・研究・コーディネート事業

ア) 宮崎発 Live! Library 図書館フォーラム 2019

◆事業期間

期間：令和元年8月～令和2年1月

◆事業目的

地域の情報拠点としての図書館の意義、及びこれからの図書館の在り方について、“まち”と文化振興の観点から、県民とともに考える場を設ける。

◆事業内容

講師インタビューとの連絡調整及び謝金・旅費の支払い、宿泊手配・宿泊費支払い、昼食の提供を含む公演開催に必要な業務。

チラシを作成し、案内先へ送付するとともに、県民へ広く効率的・効果的な募集を行う。

開催当日、会場設営、受付、資料配布、会場整理、駐車場の整理などの運営を行う。

講演会「宮崎発 Live Library 図書館フォーラム 2019」

- ・日 時 令和元年11月16日土曜日 13:15～16:35
- ・会 場 県立図書館2階研修ホール
- ・参加者 102名（関係者含む）

県内実践発表

- ・発表者：山田 一誠氏 五ヶ瀬町教育委員会図書室 地域おこし協力隊
- ・発表者：北方 俊二氏 えびの市民図書館 館長

基調講演

地域に根ざした県民目線の図書館づくり

～人と共にある図書館の未来は明るい～

講演者：高橋 慎太郎氏 鳥取県立図書館相談課 相談担当係長

インタビュー・ダイアログ

これからの図書館・司書を考える

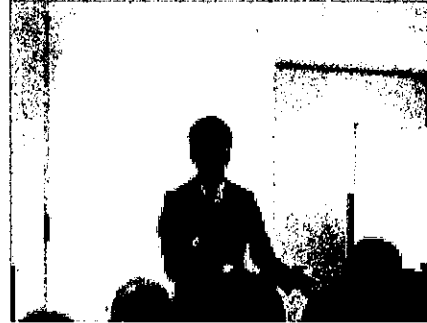
登壇者：高橋 慎太郎氏

進 行： 井上 優（NPO 法人宮崎文化本舗副理事長）

クロージング

竹内 元氏（宮崎県読書活動推進委員会委員長）

◆事業 風景



イ) 大和証券福祉財団ボランティア活動助成事業

◆事業期間

期間：平成31年1月～令和2年1月

◆事業内容

【出会いの場】

(1) 講演会

日時 2019年6月2日(日曜日) 13:30～16:30

会場 宮崎県立西都原考古博物館大ホール

参加者数 63名

講演内容 退職後の居場所づくり

一定年退職後 セカンドステージが始まるー

1部 13:30～15:00 「退職後の居場所作り」

講師 安立清史氏(九州大学大学院人間環境学研究院・教授)

2部 15:10～16:30 「世界遺産と市民参画」

講師 北郷泰道氏(考古学者)

(2) 意見交換会 ガイド活動は元気の素

日時 2019年7月15日(月曜日・祝日) 12:00～13:25

会 場 宮崎県立西都原考古博物館セミナー室
参加者数 23名

【体験の場】

(1) 西都原考古博物館学芸による講座+ガイド体験

日 時 2019年4/7. 5/12. 7/7. 8/4. 10/6. 11/3. 12/1 13:30~15:00
会 場 宮崎県立西都原考古博物館大ホール・セミナー室
参加者数 各40~50名

(2) ボランティア体験

① 滝行サポート

日 時 2019年9月29日 10:00~13:00
会 場 宮崎県西都市東米良銀鏡 水車の滝
参加者数 2名 サポート

② 講演会運営補助

日 時 2019年11月16日 10:00~12:00
会 場 宮崎県立図書館2階研修ホール
参加者数 2名 図書館フォーラムにて運営の手伝い

【チラシ作成】

① ボランティア募集チラシ作成 10,000部 関係各所に配布 (別添)



講演会風景

ウ) ホームページ・SNS

ホームページ改定 SNSを活用した案内・告知 <http://www.isaito.net/>

F Bによる博物館運営支援事業全般はもちろん、インスタグラムによるミュージアムショップの情報や24時間対応で図書館フォーラムの参加受付、西都市銀鏡での「滝行プロジェクト」申し込み受付など行う。イベントページ等常にアップしボランティア養成講座の情報発信にさらに力を入れた。受信箱やメールにての問い合わせなども多く周知されてきたことを感じる。



② 公共施設の等管理・運営に関する協力・委託事業

ア) 宮崎県立西都原考古博物館運営支援業務委託事業

◆事業期間

期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

◆事業概要

県立西都原考古博物館（以下、博物館と称する）においては、我々事務局を取り巻く環境が大きく変化し、その中で事務局として運営支援業務を遂行し、来館者の増加とその満足度の向上、そしてガイドボランティアの育成とモチベーションアップに少なからず貢献できたものと考えている。

さて、今年度は、4月の企画展Ⅰ「炎が生み出すもの」では、本県の弥生時代～古代までの鍛冶関連資料と製作された鉄器の紹介を通して、どのような鍛冶技術が使用され、時代とともに変化していったのかを考えた。7月の特別展「埴輪のある風景」では、日本遺産に認定された宮崎の古墳から出土した埴輪を中心に取り上げ、畿内地方や関東地方の埴輪との比較を通して、埴輪の役割やそれらが樹立された古墳の景観について考えた。10月に開幕した国際交流展「台湾 宜蘭 洪武蘭遺跡」では、日本で初めてとなる洪武蘭遺跡出土資料の展示とともに、県内出土の東南アジアや中国南東部産の陶磁器資料を通して、アジアにおける海を介した繋がりを紹介した。1月の企画展Ⅱ「漆黒の輝き 赤の祈り ～ウルシの考古学～」では、縄文時代から現代に至る時間の中で、漆に向き合った九州の人びとが、黒と赤のコントラストに込めた思いを、考古資料や民俗資料、歴史記録などから読み取ることとした。

加えて、コレクションギャラリー展では、「文化財を守る 伝える」と題して、貴重な文化財をどのように守り、保存し、それを伝えていくかというテーマで各展示会の合間に3回開催された。（当初、4回の予定であったが、以下に述べる理由により4回目は中止となった。）

しかしながら、令和元年末に中国国内で確認された「新型コロナウイルス」は、またたくまに全世界規模で感染が広まり、日本国内でも多くの感染が確認されている。そんな中、宮崎県でも3月4日に感染者が確認され、翌日から博物館も臨時休館となり、ガイドボランティアに対して展示室・体験館・古墳群における活動休止の指示が出た。今後も予断を許さない状況が続いている。

そんな中、当法人は運営支援業務を遂行してきた。その主な業務としては、見学（体験）予約に関する対応、ボランティアガイド（以下、ボランティアと称する）のコーディネート。そして、ボランティアに対する講座・研修の企画と実施。また、古代生活体験館（以下、体験館と称する）における体験活動で使用する材料等の調達などである。

ボランティア研修については、館内における様々な研修・講座はもとより、毎年度実施する館外研修も2回（日帰り、1泊）実施した。また、昨年に続き通年テーマ（文化財を守る 伝える）で開催されたコレクションギャラリー展についても、担当学芸員の協力の

元その解説研修を行った。(最終回は、博物館の臨時休館により中止。)このような様々な講座・研修を通してボランティアのモチベーションとスキルの向上を図るとともに、フィールドミュージアムとしての西都原において、古墳群、博物館、そして古代生活体験館をお客さんが回遊できるよう博物館・古墳群のボランティア同士が連携して活動できるようその支援をさらに強化していきたいと考えている。

また、その他の運営支援に資する業務として当法人の特性を活かした様々な事業を博物館において企画・実施した。その目的は、これまで考古・歴史にあまり関心のなかった方々にも博物館に足を運んでいただくという事である。

6月からミュージアムショップでは、7月に開幕する特別展「埴輪のある風景」に向けて、埴輪関連書籍や、関連講演会等の講師をされる方々の著書を集めて関連書籍フェアを実施。ボランティアをはじめ講演会参加者の皆さんに好評をいただいた。併せて、特別展が「埴輪」をテーマにしているという事で、「はにわコンテスト」を開催した。子どもたちに既存の埴輪(「踊る人」のような)にとらわれず自由な発想で自分だけのオリジナルはにわを作ってもらおうというものである。期間中に50点ほどの応募があり、中には、昆虫(クワガタムシ)の埴輪だったりライオンがあったりと子どもらしいユニークな作品が集まった。9月にはその中から館職員やボランティアに選んでいただいた11人のお子さんに表彰状を授与した。受賞者のお子さんをはじめその保護者の方々に参加していただき、みなさんから大変喜んでいただいた。来年度にもぜひまた開催してほしいと館側から依頼があり継続して実施したいと考えているところである。

7月15日には、今年で5回目となる夏恒例のミュージアムコンサート「ひまわりコンサート」を博物館1階エントランスホールで開催。今回も外山友紀子氏とその生徒さんたちからなる「フルートアンサンブル“楽つく”」の皆さんによる演奏会である。一般の方々にもなじみのあるクラシックやポピュラーの名曲、お子さん方にも楽しんでいただけるよう動揺やアニメソングなど選曲にも気を配っていただいととても楽しめる内容であった。

9月15日には、昨年から共同開催している「博物館 de マルシェ& BRASH」を開催。のべで約900人の参加をいただくことができた。ボランティアも「勾玉作りブース」を出店し、一緒に参加する事ができた。この企画では、博物館に足を運ぶことが少ないと思われる若い世代の方々が多数参加しており、「西都原っていいね!」「また遊びにきたい」という声を多く聞くことができた。今回は新たに、「ポニーの乗馬体験」も行い、家族連れをはじめ多くの方が体験されていた。このイベントの開催にあたっては、博物館をはじめ(一社)みやざき公園協会、(県)西都土木事務所など関係各位のご理解と多大な協力をいただいた事を申し添えるとともに、あらためて感謝の意を表する次第である。こちらについても、今後も継続して開催し、西都原の名物企画となるよう BRASH 実行委員会の方々と一緒に取り組んでいきたい。

10月12日には、国際交流展の開幕に合わせて表千家流茶道宮崎県同友会と共催で「秋のお茶会」を開催した。同友会との共催は3回目。最初から数えると5回目の開催となる。

1階エントランスホールに茶室を再現して本格的なお点前とこの日のために作られたオリジナル和菓子を楽しんでいただいた。のべ150名ほどのお客さんにご来場いただき、とても満足していただけたと思う。

10月13日には、前日から博物館1階ホールで合宿をされていたチェロ奏者の土田浩氏をはじめとする宮崎県チェロ協会の皆さんが、1階ホールでミニコンサート「古墳のまち さいと チェロミニコンサート ～チェロアンサンブルの魅力万彩～」を開催した。急な開催だったにもかかわらず50名ほどの方に楽しんでいただくことができた。

10月20日には、これも秋恒例の「コスモスコンサート」を開催。今回は会場をこれまでの1階エントランスホールから地下の展示室に移しての開催となった。展示室でのコンサートは昨年度に続いての開催となる。プロの演奏家である外山友紀子氏（フルート）、土田浩氏（チェロ）、土田悦子氏（ピアノ）のお三方に演奏していただいた。チェロの土田氏は、前週のミニコンサートにひき続いて演奏をしていただくこととなった。展示室での演奏会ということで、古代の遺物に囲まれての演奏であり、演者の皆さんも、観客の皆さんも非日常的な雰囲気の中での演奏を十分に楽しんでいただけたことだと思う。この開催にあたっては、博物館館長をはじめ学芸員や館職員の方々にご理解と多大なご協力をいただいたことに対し、あらためて深く感謝を申し上げる次第である。

直接的なイベントではないが、11月2日に社員のレクリエーションで当館を訪れた宮崎市内の企業の担当者から、事前にガイドの依頼と併せて展示物等に関するクイズを作成してほしいとの依頼があった。レクリエーションとして来館する企業・団体はたくさんあるが、このようにクイズ作成を依頼されたのは初めてであったが、参加者の皆さんに楽しんでいただけるよう、展示物に関する問題を中心に作成した。また、案内を担当されるボランティアにも事前にクイズの内容を伝えて、説明をお願いした。その成果が出たのか、参加した約20名のほとんどの方が満点だったそうである。このような利用の仕方は、コーディネートする我々としてもとても嬉しいことである。今後は、このアイデアを活用して来館者クイズ的な企画も実施したいと考えている。

昨年から当法人が参加している西都商工会議所主催の「西都まちゼミ」。これは本来、商店や事業所がその業務に関する理解を深めてもらうために、近隣住民を対象として行ってきたものであるが、昨年度、強い要請があり当法人も参加するようになった。その目的は、地域における文化的・歴史的財産としての西都原古墳群や遺跡・史跡を正しく理解し、住民自らがその魅力を発信してもらうという事である。2回目となる今回は、西都市にある日向国府跡について「西都にあった！古代日向の『都』～日向国府って何？～」と題し、博物館副館長であり国府跡の発掘調査にも携わられた吉本正典氏を講師にお迎えして行った。地元の遺跡に関する講座ということでボランティアをはじめ市内外から約30名の参加をいただいた。

12月には、西都原ボランティア協議会の忘年会（事実上、博物館忘年会も兼ねる）や活動開始から10年を経たボランティアへの感謝状の授与もありました。

12月18日には、今年度から初の企画として第1回サテライト講座「博物館が街にやってきました！」を宮崎駅前のKITENビルにて開催。1回目は、「文化財を守る 伝える①」のテーマで永友専門主事にお話しいただいた。参加者からは、「宮崎市内でやってくれてよかった。」「これからもぜひやってほしい。」といった声が聞かれた。

1月20日には、第2回サテライト講座「ウルシの考古学」というテーマで松本主査を講師にお迎えして前回と同会場で開催した。これは開催中の企画展Ⅱ「漆黒の輝き 赤の祈り ～ウルシの考古学～」にちなんだテーマであり、参加者の中には「この講座に参加して、展示会に興味を持ちました。」と言って来館して下さった方もいた。次年度には、このように各展示会にちなんだテーマでのサテライト講座を博物館の協力をいただきながら開催を考えている。

1月25日には、ミュージアムショップで取引させていただいている「佐土原人形店ますや」のご協力で、「佐土原人形 ひな人形絵付け体験」を実施、ボランティア・一般客を含め13名の方に参加していただいた。ますやの下西氏の指導の元、各自が思い思いに色を塗りオリジナルのひな人形を制作した。出来上がったひな人形は、博物館のご協力で、1階受付横に展示させていただいた。来館されたお客様も、人形の前で足を止めて作品に見入ったり、中には作品をバックに記念写真を撮られる方もいて、多くの方に楽しんでいただけたものと思っている。

2月には、こちらも恒例となった「銅鏡チョコを作ろう！」を8日・9日の2日間開催した。参加者は付添いの方を含め50名ほどの方が参加した。リピーターの方もいたが、初めて参加された方や、たまたま体験館に来られていた家族連れの方もいた。開始前とチョコを冷やしている（固める）間には、「銅鏡ミニ講座」を行い、簡単な銅鏡の解説と、実際に展示室に移動し西都原13号墳から出土の「三角縁神獣鏡」をはじめとする実際の銅鏡を見学していただき理解を深めていただくとともに、仕上げの参考にもしていただいた。今後は、現在使用している型に加えて西都原出土の鏡の型を使った「銅鏡チョコ」作りも企画したいと考えているところである。

そして3月。この月も防災訓練&救命講習、連続講座修了式、第3回サテライト講座などを計画していたが、新型コロナウイルス感染予防ならびにお客様や職員・ボランティアの安全確保のため、博物館は臨時休館、ボランティアも活動休止という事態となってしまった。一日も早い事態の収束が望まれるところである。

さて、委託事業ではないが、当法人は自主事業として博物館1階のミュージアムショップ（以下、MSと称する。）の運営を行っている。これも、博物館の運営支援の大きな柱の一つと位置付けている。このMSにおいては、博物館が発行する図録の販売を行うとともに、展示会関連書籍や一般的な考古・歴史関連書籍、さらには、一般書店では入手不可能な発掘調査報告書および他の博物館の図録なども品揃えし販売している。こうした書籍類については、SNS等での案内を行うことで多くのファンを獲得し認知度も向上しており、「関連書籍の品揃えは県内トップクラス」との評価をいただけるようになってきた。

また、博物館や考古・歴史ファンの底辺拡大（女性や子どもさんのファンを増やす）を目的として、関西圏の女性を中心に人気の“古墳グッズ”（シール、ふせん、ハンカチなど）を品揃えし販売している。中には、これらの商品を目当てに来館される方も多く、来館者増の一助にもなっているのではと考えている。時には、業者の方から「古墳グッズを扱っているようなので、うちの商品も販売してもらえないか。」といった問い合わせも多くなってきた。特に若い女性は、SNS等を利用した発信力が強く、それによってさらなる来館者増も期待できるのではと考えている。

くわえてMSでは、県内で活動されている作家の作品を展示・販売、体験ワークショップの実施、「博物館 de マルシェ」の開催等にも力を入れてきた。これによって、前述した“古墳グッズ”と同様に博物館に足を運ぶことが少なかった女性や子ども連れ等の来館を誘引するきっかけとなったと考えているが、今後は企画とその実施内容をさらに魅力あるものとして、さらなる来館者増を目指していきたい。

さらにMSでは、プロアマを問わず絵画・写真、手工芸品等の作品をMS内の壁面等を利用して展示し、来館されたお客さんに楽しんでいただけるようにしている。ボランティアが趣味で制作した絵画や、地元の書家の作品展などを開催したが、その展示を目当てに来館される方もおられた。そうしたお客様には、MSスタッフが展示会や体験館の紹介を行い、展示室や体験館へと誘導することにも努めてきた。今後も、こうした取組を継続して、さらなる来館機会の創出と認知度アップを目指すとともに、多くの方々の発表の場として活用していただけるよう、情報発信や案内を強化していきたいと考えている。



イ) 丸亀市猪熊弦一郎美術館ボランティア養成講座開催業務

◆事業期間

期間：平成31年4月～令和2年3月

◆事業概要

丸亀市文化振興講演会・文化芸術推進サポーター養成ワークショップ実施

◆事業内容

Vol. 1 丸亀市文化振興講演会「まちづくりと地域の文化」

～まちの文化を一緒に楽しく考えませんか？～ 講師：井上優

Vol. 2 丸亀市文化振興講演会「映画の創作法に学ぶストーリーテリング」

～事実だけでなく、物語によって伝達術～ 講師：花堂純次氏

Vol. 3 丸亀市文化振興講演会ワークショップ

「子どもの感性を無意識レベルで育てる」 講師：花堂純次氏

Vol. 4 丸亀市文化振興講演会「まちと文化、そして居場所」

講師：井上優・古賀和子

Vol. 5 丸亀市文化振興講演会「なぜ9か月半で入館者数100万人を達成できたか」

講師：井上康志氏

Vol. 6 文化芸術推進サポーター養成講座ワークショップ

「自分達で丸亀の文化を誇ろう」 講師：井上優

Vol. 7 文化芸術推進サポーター養成講座講演会

「文化ボランティア実践事例と地域再生」 講師：井上優

Vol. 8 文化芸術推進サポーター養成講座瀬戸内国際芸術祭2019

作品ガイド・ワークショップ コーディネーター 井上優

Vol. 9 文化芸術推進サポーター養成講座

丸亀城下町まちあるきボランティアガイドワークショップ

コーディネーター 井上優 大西泰弘 (NPO) 土壁ネットワーク

Vol. 10 丸亀市文化振興講演会「千と千尋の神隠し」で考える

グローバル時代の私たちの行方 講師：安立清史氏

Vol. 11 文化芸術推進サポーター養成講座ワークショップ

「私たちのしたいこと・できること」

一人で出来る事は小さいけれど、一人ひとりの「意識」が

集まればそれは大きな力になる

講師：井上優

番外編 ワクワクする動画の作り方～スマホだけでつくるPV（初級編）

講師：花堂純次氏

Vol. 12 文化芸術推進サポーター養成講座

「ひとりの行動をみんなの行動に！」をみんなで考えてみよう！

仲間・組織づくりワークショップ

講師：井上優

Vol. 13 丸亀市文化振興講演会

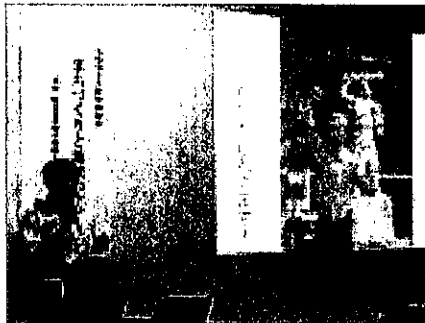
オリンピックメンタルコーチから学ぶ市民活動のチームビルディング

個人の力がチームとして一体化し、最高のパフォーマンスを発揮するために必要なチームビルディングの秘訣とは？

講師：山家正尚氏

Vol. 14 文化芸術推進サポーター養成講座ワークショップ「活動をデザインしよう」

一人ひとりの思いを形にするための戦略とは？ 講師：井上優・古賀和子



③その他の目的を達成するために必要な事業

ア) 宮崎県立西都原考古博物館ミュージアムショップ運営事業

- ・ 博物館 de マルシェ
- ・ ミュージアムショップでの新規商品開拓への取組
- ・ SNSを活用した各種情報発信の取組
- ・ お客様に喜んでいただくための取組(折り紙のプレゼント等)
- ・ 書籍品揃え充実への取組

【事務局通信】 * SNSを活用した各種情報発信の取組例

＜縄文草創期のウルシの小枝＞

開催中の企画展Ⅱ「漆黒の輝き 赤の祈り ウルシの考古学」。その解説講座の中で取り上げられた福井県の「鳥浜貝塚」。

この遺跡から 1984 年の調査で出土した長さ20cmほどの小枝。当初はヤマウルシとされていたが、その後の調査でウルシであると認められた。しかも、2012 年に放射性炭素年代測定により約 12,600 年前のものであると報告され話題になった。(この間 20 年以上、倉庫で保管されていたという)

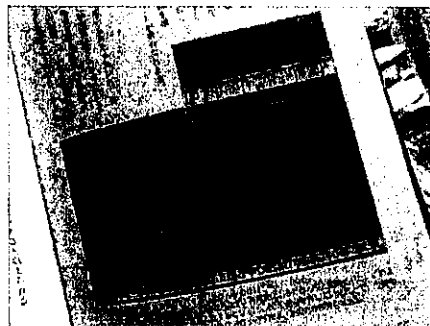
これによって、ウルシが早くも縄文草創期には国内に存在していたと確認された。

「縄文のタイムカプセル 鳥浜貝塚」

田中祐二:著 新泉社・シリーズ「遺跡を学ぶ」113

価格:1,600 円(税別)

企画展Ⅱと併せてぜひご一読ください。



・ 作家さんの作品で目を引くディスプレイ



・ 体験館の休館が続く中、オリジナル勾玉体験キットを作成し販売する

イ) 銀鏡 滝行プロジェクト

滝行プロジェクトを取り組み初めて5年目を迎えます。昨年からは滝行募集(SNS)開始前から滝行について県内はもちろん県外からメールや電話での問い合わせがあり、滝場としての認知度が上がってきたと思います。ただ参加者の安全第一を考え今年も天気(台風後のがけ崩れなど)に左右される一年でした。

さて、前年まで昼食を提供されていた方の高齢化に伴い、担い手が変わる年になりました。食事場所も滝行の集合場所になり、地元の方と参加者が一緒に食事できる交流の場にもなりました。

滝場では事務局が写真撮影を担当し、後日参加者全員に写真提供(メール)を行っています。滝場での写真は好評で送られてきた写真を個人がSNS上で拡散することが多く、銀鏡の滝行周知にもつながっていると思います。

31年(令和元年) 滝行実施

実施日					
月	日	時間		昼食	参加者(関係者除く)
4月	29日	12:30神事 13:00開始	滝行	民宿しろみ お弁当	18名
9月	29日	12:30神事 13:00開始	滝行	銀鏡神社神楽 殿 コース料理	21名
2月	12日	10:00集合 10:30開始	山開き 滝行	滝場 猪うどん・猪丼	4名





心身鍛える 「滝行体験」

西都

西都市・銀鏡地区で、4年
前から年々回ベースで行われ
ている「滝行体験」が人気を
集めている。滝に打たれて
「自分を自覚させる」など



「水車滝」に打たれる滝行体験会の参加者

ど評判が広まり、大学生、会
社員、看護師など、さまざま
な人が参加。最近では九州各地
から訪れる人もおり、関係者
は「広く銀鏡を知ってもらっ
てほしい」と話している。

4月下旬にあった体験会に
は、宮崎大生や放課後児童フ
リーの支援員、会社員ら約30
人が参加した。

取り組みとして続けた」と
意欲を高めている。
同地区はかつて「山伏（や
んぼし）」と呼ばれる修験者
たちが心身を鍛える修行場だ
った。滝行体験は昭和初期ま
で続いた滝行を復興し、地域
活性化につなげようと、「銀
鏡山岳修験者の会」（会長・
上米良久通銀鏡神社管司）な
どが2015年4月に開始。

人が参加。船をくぐりような動
作などで心身の状態を整え、
白装束姿で滝に打たれた。児
童クラブの同僚と参加した都
城市の東真由美さん（51）は
「新たな気持ちで子どもたち
と向き合えそう」と話した。
体験会の運営に協力するN
PO法人、「いさい」との井
上優代表理事は「当初は参加
者9人だったが、最近では20、
30人の応募がある。就職前に
『気合を入れたい』と参加し
た長崎の学生もいた」と話
す。参加費4千円は、農家で
の昼食代などの形で地域に還
元されているという。

次回は8月開催予定。同会
事務局長の渡辺隆文さん（55）は
「滝行を通して銀鏡を知って
もらい、活性化につなげたい」
と語った。（杉田亨一）

平成31年度 活動計算書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

(単位 円)

科目・摘要	金額 (決算額)	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	41,000	
賛助会員受取会費	0	41,000
2 受取寄付金		
受取寄付金	500,000	500,000
3 助成金収益		
受取民間助成金	315,000	
受取自治体助成金	0	315,000
4 事業収益		
自主事業収益	6,521,531	
受託事業収益	12,765,640	19,287,171
5 その他収益		
商品在庫		
受取利息	21	
雑収益	174,600	174,621
経常収益計		20,317,792
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給与手当	5,764,392	
賞与	0	
雑給	103,000	
理事報酬	1,640,000	
法定福利費	946,081	
人件費計	8,453,473	
(2) その他の経費		
商品仕入	5,236,043	
保険料	27,160	
福利厚生費	126,421	
保健衛生費		
会議費	66,304	
旅費交通費	1,802,903	
車両費	113,387	
運搬費	94,058	
消耗品費	145,412	
事務用品費	198,832	
賃借料	0	
水道光熱費	0	
新聞・図書費	3,000	
家賃	0	
租税公課	626,900	
通信費	13,775	
支払手数料	11,465	
接待交際費	119,482	
広告宣伝費	47,733	
修繕費	1,260	
印刷製本費	186,260	
研修費	177,125	
雑費	190,120	
委託費(外注費)	54,300	
支払い報酬	466,126	
材料費	11,320	
支払利息	0	
その他の経費計	9,719,386	
事業費計		18,172,859
2 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	900,000	
法定福利費	400,000	
人件費計	1,294,000	
(2) その他の経費		
福利厚生費	60,527	
会議費	37,295	
旅費交通費	0	
車両費	72,967	
消耗品費	0	
事務用品費	0	
賃借料	0	
水道光熱費	0	
新聞・図書費	0	
租税公課	260,650	
家賃	0	
通信費	76,396	
支払手数料	125,804	
接待交際費	23,935	
広告宣伝費	47,500	
印刷製本費	7,300	
研修費	0	
雑費	0	
その他の経費計	712,374	
管理費計		2,141,779
経常費用計		20,314,638
当期正味財産増減額		3,154
前期繰越正味財産額		(17,800)
次期繰越正味財産額		(14,646)

(法第28条第1項関係)

特定非営利活動法人 iさいと 貸借対照表
(令和2年3月31日現在)

科目・摘要	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金・預金	198,054	
売掛金	0	
商品・製品	1,264,950	
貯蔵品	0	
立替金	300	
前払費用	0	
未収入金	0	
流動資産合計		1,463,304
資産合計		1,463,304
II 負債の部		
1 流動負債		
買掛金	0	
短期借入金	825,903	
預り金	23,250	
未払給与		
未払金	0	
未払費用	202,397	
前受金	0	
未払消費税等	426,400	
流動負債合計		1,477,950
負債合計		1,477,950
III 正味財産の部		
1 繰越金残高		3,154
前期繰越金		(17,800)
次期繰越金		(14,646)
2 その他の正味財産		
正味財産合計		(14,646)
負債・正味財産合計		1,463,304

(法第28条第1項関係)

特定非営利活動法人 いさいと 財産目録
(令和2年3月31日現在)

科目・摘要	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 西都原考古博物館	0	
普通預金 宮崎銀行西都支店 (125174) まちづくり	0	
普通預金 宮崎銀行西都支店 (196661) 博物館	198,054	
普通預金 宮崎銀行宮崎支店 (139398) 銀鏡観光	0	
普通預金 宮崎銀行西都支店 (206175) 博物館①	0	
普通預金 宮崎銀行大工町支店 (105484) ②	0	
普通預金 ゆうちょ銀行	0	
		198,054
売掛金		
MSクラブ売上、体験館 ほか	0	
未収入金		
日田市 レーダー探査	0	
商品		
西都ミュージアムショップ	1,264,950	
立替金		
VS協議会	300	
貯藏品		
西都ミュージアムショップ	0	
前払費用		
流動資産合計		1,463,304
資産合計		1,463,304
II 負債の部		
1 流動負債		
買掛金		
	0	
短期借入金		
井上 優	825,903	
未払費用		
社会保険料	202,397	
預り金		
源泉所得税1月～3月	23,250	
前受け金		
未払消費税等		
未払消費税等	426,400	
流動負債合計		1,477,950
負債合計		1,477,950
今期正味財産		(14,646)